

科目	レクリエーション論 (臨)	単位数	2
担当教員	一村 小百合		
履修対象	社会福祉学科2年春学期		
目的	対象となる人のレクリエーション活動やレクリエーション援助における基本的な役割の理解とその活動内容や支援方法について学ぶ。		
達成目標	<p>「関心・意欲・態度」</p> <p>(1)生活とレクリエーションの関係性を知ることができる。</p> <p>(2)レクリエーションの可能性を探ることができる。</p> <p>「思考・判断」</p> <p>(1)ひとり一人にあったレクリエーションを創出することができる。</p> <p>(2)レクリエーション援助の展開について考えることができる。</p> <p>「技能・表現」</p> <p>(1)コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>(2)援助者の役割と援助する際の視点を身につけ、実践することができる。</p> <p>「知識・理解」</p> <p>(1)生活を見直し、レクリエーションの活用を見いだすことができる。</p> <p>(2)レクリエーションを通して利用者理解に繋げる。</p>		
授業計画			
1	レクリエーションとは		
2	レクリエーションの概念と基本理念(社会生活のなかでのレクリエーションの必要性)		
3	レクリエーションの発展過程(海外でのレクリエーションの発展過程について)		
4	わが国でのレクリエーションの導入について		
5	レクリエーションの現状と課題(時代の流れに伝えるレクリエーション活動)		
6	生活とレクリエーション(余暇・遊び・レクリエーションとは)		
7	レクリエーション体験を通してコミュニケーションのとり方について考える		
8	レクリエーション体験を通して対象を理解する		
9	個人・集団に対するレクリエーション援助とは		
10	利用者の理解と援助者の役割(対象を捉えたレクリエーション活動について考える)		
11	福祉現場でのレクリエーションの必要性とアセスメントについて		
12	レクリエーション計画の目的と援助体系(デザインと計画の手順)		
13	レクリエーション計画の実際と活動内容について(直接援助と間接援助)		
14	レクリエーション財とその展開(生活に密着した、季節を感じるレクリエーション活動とは)		
15	これからのレクリエーション支援のあり方(今、レクリエーション活動に求められていることとは)		
授業形態	主として講義形式であるが、レクリエーション体験の実施を予定		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は使用しない。適宜資料を配布する。			
参考書	<p>「社会福祉士・介護福祉士養成講座 レクリエーション論」 奥野孝昭 渡辺嘉久編著 相川書房</p> <p>「学びやすいレクリエーション援助」 硯川真旬 小西博喜 辻 道夫 滝口真編著 金芳堂</p> <p>「いまずぐ使える福祉レクリエーション アセスメントの視点をもって援助する」 池 良弘著 中央法規</p> <p>「福祉レクリエーションシリーズⅠ 福祉レクリエーション総論」 日本レクリエーション協会監修 中央法規</p> <p>「福祉レクリエーションシリーズⅡ 福祉レクリエーション援助の方法」 日本レクリエーション協会監修 中央法規</p> <p>「福祉レクリエーションシリーズⅢ 福祉レクリエーション援助の実際」 日本レクリエーション協会監修 中央法規</p>		
評価方法	受講態度、ふりかえりやレポート課題などの提出物を重視するとともに、授業への参加態度や学期末試験などから総合的に評価する。		
留意点	授業態度について、受講時は私語を慎み、携帯電話は必要時以外は電源を切っておくこと。これから自分が関わる社会福祉現場では、どのようなレクリエーションが必要だと考えるか、その意義は何かなど、問題意識をもって授業に臨むこと。		
準備学習	対象を捉えたレクリエーション計画を作成することを予定しているので、自分にとって対象となる人は誰であるか考えておく。また身の回りの活用できる社会資源など、気になることについて日頃から書きとめておくこと。		
備考	実践活動を盛りこむ予定にしているので受講者の積極的な関わりを期待する。	No.	SW421025